

特集

心臓カテーテル検査室
待望の2台体制

最新トピックス

最新の心臓血管撮影装置

365日24時間体制で
緊急検査に対応

日本人の死因の第二位が心疾患です。

心臓病死の多くを占める心筋梗塞や狭心症は、心臓の筋肉に酸素を送る冠動脈の内腔が動脈硬化などのために狭くなったり、つまったりして起きる病気です。

心筋梗塞は以前までは、発病後24時間以内に急死する例が非常に多く、この病気に罹った人の3分の1までは、1~2週間以内に死亡したといわれています。現在では、治療環境、技術が整い死亡率は以前の半分以下に下がっていますが、発症からいかに早く検査治療をおこなえるのかがキーポイントとなります。



当院では、循環器科での心筋梗塞や狭心症の検査・治療を、主に心臓カテーテル法（細い管を血管から心臓に到達させて行う方法）を用いて行っており、現在年間700件から800件に達しています。

2室体制
これまで1部屋しかなかった心臓カテーテル室ですが、このたびの増設により2部屋となり、緊急の検査・治療が重なった場合、また仮にどちらかの装置が故障した場合でも対応できるようにしました。

そして増設した番検査室を冠動脈検査治療関連に。また、同時バイプライン機能（同時に二方向から撮影できる）のある従来の番検査室を、ベイスメーカーなど電気生理機能関連に使用することになりました。これにより、部屋ごとの分担当が明確になり、より専門的にスムーズに検査・治療を行えるようになりました。

この装置は高性能の受像センサーを使用し、さらにシステム自体の効率化が計られていて、術者が手技に集中できるように設計されています。そして、以前から使用してきたフィルム系のアナログ媒体を廃止し、すべて

高度化されたX線診断装置

このたび増設された装置はフィリップス製で最新の機能を備えています。

デジタル信号で検査画像データを保存するようになり、番検査室はもとより、各病棟・外来診察室でもそのデータを閲覧出来るようになり、当院の電子カルテシステムに対応し、患者様への説明、診療がより早く確実に行える様になりました。



新しい装置の感想

非常に美しい！！0.2 ミリ程度の構造物もはっきりと見え、なおかつ画像の歪みもないため、正確な狭窄の割合が把握できるようになりました。また、以前の検査画像がすばやく参照できるようにもなり、病態の変化も一目瞭然です。

By アンギオ担当技師